

交通事故のない明るく住みよい雲南地域を願う

第1回雲南地区交通安全大会



エリヴァホールで開催されました。
式典に先がけ、交通安全パレードが行われ、鳥根県警察音楽隊や雲南地区の交通安全協会の会員などおよそ500人が市役所から会場までをパレードしました。
式典では、県警察音楽隊による演奏、交通事故犠牲者に対する追悼の黙禱があり、上



「減らそう交通事故 めざそう安全うんなん！」を合言葉に、初めてとなる雲南地区交通安全大会が10月27日、チ



県警察音楽隊による演奏もありました



代義郎大会長、速水市長などがあいさつ。引き続き、交通安全活動に尽力された方々に感謝状や表彰状が授与されました。

雲南地区交通安全協会設立記念 雲南地区交通安全協会 会長表彰(敬称略)

- 交通安全標語コンクール
最優秀賞 深田定子(木次町)
優秀賞 山崎明男(大東町)
佳作 山崎英子(大東町)
- 交通安全書道コンクール
金賞 稲田由佳(加茂小学校)
銀賞 丹後雅登(波多小学校)
銅賞 陶山 葵(三戸野花塾)



市民参画型の図書館をめざして 生涯学習センター整備検討委員会

現在、市では加茂総合センター2階を生涯学習センター(図書館)に改修しており、その整備検討委員会が、11月8日、加茂総合センターで開催されました。

6回目の会議となったこの日は、整備工事の工程や蔵書管理について話し合いがありました。
整備検討委員会では、今年7月に加茂町内でアンケートを実施し、その集計結果をふまえた施設整備を予定しているほか、11月19・20日には、市民による選挙を行い、積極的に市民の意向を取り入れた市民参画型の図書館づくりをすすめています。

木次町発

わがまちの

巧み

このコーナーでは、地域に根付いている伝統工芸や地域ならではの活動をされているみなさんを紹介していきます。

「日本刺繍 千織工房」

今月は、木次町宇合にある自宅を兼ねた工房で、古来から伝わる伝統技術「日本刺繍」の創作活動をする木村千鶴(ちづる)さんを紹介いたします。



日本刺繍とは

日本刺繍は、その昔、貴族を中心に十二単や繡仏(仏画の刺繍)などに用いられていました。そして、日本の長い刺繍の歴史の中で、独自の技法、刺し方が生み出され、現在は「日本刺繍」として工芸家に受け継がれています。

日本刺繍の特徴は、木綿でなく、絹糸を使用する点にあります。

絹糸は、木綿に無い光沢や強度があるほか、糸の太さを調整することができるため、繊細で緻密な表現を生み出します。

また、その作品創作には、時間を要し、完成までに数年かかることもあります。

日本刺繍との出会い

京都で生まれた千鶴さんは、幼い頃から日本刺繍の「繊細で高度な工芸技術」や「奥深く、心の和む作品」など絹文化に肌で触れてきました。このことが、日本刺繍を創作するきっかけになったと話しています。

日本刺繍協会師範でもある千鶴さんは、現在、お父さんの義弘さんとともに、日本刺繍の作



品創作や山陰両県で刺繍教室を開催し、伝統工芸の普及と継承活動をされています。

雲南市の印象

「工芸作品には、作者の心や人格が表れるため、自然豊かな場所での創作活動は、作品の仕上がりも良くなると思います。

世界に誇れる絹文化の心と技をより多くの人に知ってもらい、絹糸が織り成す作品をぜひみなさんにも見ていただきたい。

そして、日本刺繍が定着し、後世に残る作品を作り続けたい」と創作活動への意欲を語ってくれました。

日本刺繍教室

木村さんは、毎月第2・4土曜日に、チエリヴァホールで刺繍教室を開催されています。

優雅で繊細な日本刺繍に興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

千織工房 ☎0854-421-950まで

